

## インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: インフルエンザ 報告数は7,719件(前月比12.0、前年同月比1.3)でした。1月から2月にかけて増加傾向にあります。地域別では、御船、水俣を除く地域が警報レベル(1定点当たりの報告数30)を超えています。例年、1月下旬から2月上旬にピークを迎えますので、ちょうど流行のピークにあると思われます。また今年はインフルエンザB型がA型と混在しているのが特徴です。

## 小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告数は12,925件(前月比2.1、前年同月比2.2)と増加しています。インフルエンザ以外の疾患の増減はほとんどありませんでしたので、インフルエンザの増加が大きな増加理由です。今後も増加が予想され、注意が必要です。

## (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 231件(前月比0.9、前年同月比1.4)とあまり変化はありません。10月をピークに減少傾向にありますが、1才以下の年少児を中心に流行が持続しています。人吉(15.3)からの報告が多いです。

※( )書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

2. 咽頭結膜熱: 204件(前月比0.7、前年同月比1.3)で、減少傾向にあります。菊池(21.8)からの報告が特に多いです。1-2才にピークがあります。

3. A群溶連菌咽頭炎: 487件(前月比0.8、前年同月比1.3)で、前月比はやや減少しましたが例年より多く報告されています。菊池(26.0)宇城(17.8)からの報告が多いです。

4. 感染性胃腸炎: 3,311件(前月比1.0、前年同月比1.0)で、ほぼ横ばいです。この時期以降、例年夏にかけて減少傾向となっていきます。山鹿(176.5)、有明(111.0)菊池(108.2)からの報告が多いです。幅広い年齢層で報告があります。

5. 水痘: 345件(前月比0.8、前年同月比0.7)で、10月より増加傾向にありましたが、減少に転じています。菊池(17.2)山鹿(16.5)からの報告が多いです。1-3才にピークがあります。

6. 手足口病: 192件(前月比0.9、前年同月比0.9)で、7月をピークに収束し、9月以降はほぼ横ばいです。1-2才にピークがあります。

7. 伝染性紅斑: 14件(前月比1.8、前年同月比2.3)で、2年以上少数の報告が続いています。

8. 突発性発疹症: 127件(前月比1.0、前年同月比0.7)でした。この3年間、通年性に発症の報告がありますが、やや夏に多い傾向があります。

9. 百日咳: 1件(前月比-、前年同月比-)で、菊池からの報告でした。10-14歳でした。

10. ヘルパンギーナ: 27件(前月比1.4、前年同月比3.9)で、例年同様に7月をピークに減少しています。

11. 流行性耳下腺炎： 10件(前月比1.7、前年同月比0.1)で、H23年よりずっと減少傾向にあります。全国的に4-5年ごとに大きな流行を繰り返しており、(H22-23)谷間の期間と考えられます。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数85件(前月比1.1、前年同月比1.1)と増加しています。予想していた大きな流行はありませんでしたが、2月に入ってから発症が続いています。年齢別では、30～39歳をピークに20～60歳代に多発しています。先月まで増加傾向にありました乳幼児では減少しています。地域別では、熊本73件、菊池5件、有明1件、天草6件の報告です。

## STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 74件(前月比 1.3、前年同月比 1.2)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、女性が56件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、女性は15～29歳に45件と多く、男性では15～44歳に多く見られています。地区別は、熊本47件と圧倒的に多く、次いで八代14件、御船5件、菊池、有明に各3件、宇城に2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：  
報告数 22件(前月比 1.7、前年同月比0.9)で、前月比は増加、前年同月比は減少しています。男女別は、男性が14件と多く見られています。年齢別は、男性は20～59歳と幅広く、女性は25～29歳に5件と多く見られています。地区別は、熊本が11件と圧倒的に多く、次いで八代6件、宇城3件、菊池2件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は10件(前月比 1.4、前年同月比0.8)で、前月比は増加、前年同月比は減少しています。男女別は、男性が8件と多く見られています。年齢別は、男性は20～24歳に4件と多く、女性は20～24歳に見られています。地区別は、熊本8件、菊池、八代に各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は12件(前月比1.3、前年同月比0.5)で、前月比は増加、前年同月比は減少しています。男女別は、男性に11件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、男性は10～44歳とやや幅広く見られ、女性は20～24歳に見られています。地区別は、熊本10件、有明、宇城に各1件でした。

## 基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数2件(前月比 +2、前年同月比 +2)でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数3件(前月比3.0、前年同月比 +3)でした。
3. マイコプラズマ肺炎：報告数2件(前月比 0.5、前年同月比 0.2)でした。前年より少ない傾向が継続しています。

4. クラミジア肺炎: 報告数1件(前月比 1. 0、前年同月比 0. 5)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数9件(前月比 9. 0、前年同月比-)でした。流行期入りと考えられます。  
(ロタウイルス)

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:  
報告数31件(前月比 1. 1、前年同月比 1. 9)でした。昨年11月より前年より多い傾向が持続しており要注意です。熊本、阿蘇が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:  
報告数6件(前月比 0. 7、前年同月比 0. 8)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:  
報告数0件(前月比±0、前年同月比±0)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:  
報告数0件(前月比±0、前年同月比±0)でした。

## 届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 21件
- 3類感染症: 報告はありませんでした。
- 4類感染症: レジオネラ症: 1件
- 5類感染症: アメーバ赤痢: 1件  
後天性免疫不全症候群: 1件  
侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1件  
侵襲性肺炎球菌感染症: 4件  
梅毒: 2件  
破傷風: 1件